

## 令和2年度3学期始業式 式辞

皆さん、おはようございます。そして、あけましておめでとうございます。

今日から3学期が始まります。冬休みはどうでしたか？年末にはこの辺りもたくさんの雪が降りましたね。今日もどんどん雪が降っています。雪遊びをした人もたくさんいることでしょう。今年のお正月は、おでかけが少なかったり、親せきの人が来なかったりと、いつもとは少し様子がちがっていたかもしれません。でも、元気に加計小学校の児童の皆さん、先生方とこうして、3学期を始めることができ、ありがたく思います。

今、私は「ありがたく思います」と言いました。皆さんも普段、「ありがとう」という言葉をよく使うと思います。突然ですがここで問題です。

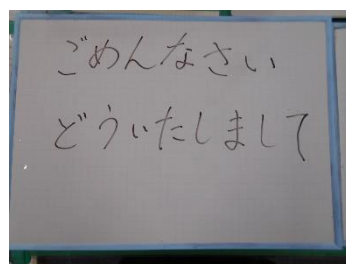
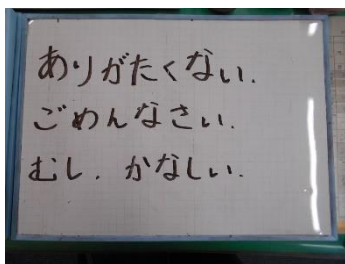
「ありがとう」の反対の意味の言葉は何でしょう？

反対の意味の言葉とは、例えば「大きい」なら「小さい」とか、「明るい」なら「暗い」という関係の言葉です。

さて、もう一度言いますよ。「『ありがとう』の反対の意味の言葉は何でしょう？」

少し考えてみてください。近くの人と相談してもいいですよ。2分間時間を取りますから、学級で出た意見をホワイトボードに書いて画面に向けて見せてください。先生お願いします。(2分待つ)

ではどんな意見が出たでしょうか？画面を見てみましょう。

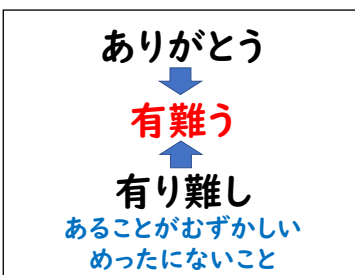


- ・ごめん・ごめんね
- ・ごめんなさい
- ・ありがたくない
- ・どういたしまして
- ・こんばんは 等々

なるほど、いろんな意見がありましたね。考えてくれてありがとうございました。

さて、正解は・・・「ありがとう」の反対の意味を持つ言葉は「当たり前」だそうです。

少し説明しましょう。「ありがとう」を漢字で書くと「有難う」となります。

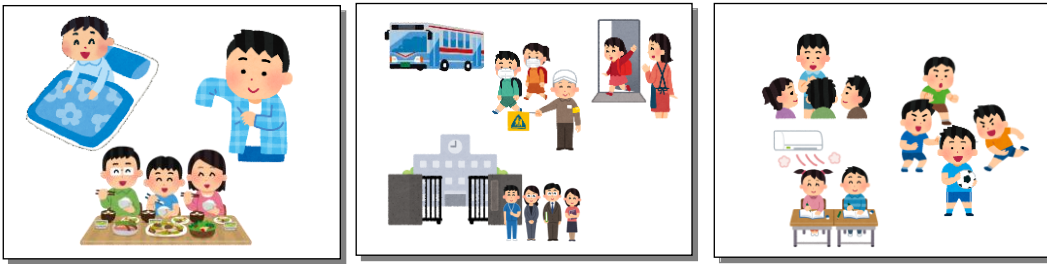


もともと「有難う」は「有り難し」という言葉が変化したものです。

「有り難し」とは、「あることが難しい、めったにないこと」という意味です。だから、「めったにないこと」の反対の意味をもつ「当たり前」が「ありがとう」の反対語ということになるそうです。

「めったにないようなことに巡り合えて、感謝しています」という気持ちを伝えるために「ありがとう」という言葉があるのですね。

今朝、皆さんが起きて、学校に来るまでのことを思い出してみてください。これから私が話すことの中に、たくさんの「ありがとう」が隠れています。いくつ見つけれられるかな？探してみましょう。



「あなたは、朝、目が覚めました。布団から出て、服を着替えました。朝ごはんを食べました。おうちの人に「いってらっしゃい！」と言ってもらいました。バスに乗ったり、通学班で歩いてきたりして、学校に着きました。途中で、地域の人が登校の様子を見守ってくれていました。校門で、先生方が迎えてくれました。「体温測りましたか？」と尋ねられました。教室でお友達と「おはよう」の挨拶を交わしました。朝会までの時間、校庭でサッカーをして遊びました。時間になったので、教室に入りました。」

はい、ここまでです。

ここまでにはたくさんの「ありがとう」がありましたよ。気づきましたか？

朝、起きて着替えた服をきれいにお洗濯してくれた人がいます。

朝ごはんを作ってくれた人

ストーブを付けて部屋を暖めてくれた人

行ってらっしゃいと言ってくれた人

バス停まで送ってくれた人

バスを安全に運転してくれた人（おそらくその人は、今朝早くからバスの安全点検をして、皆さんの近くのバス停まで迎えに来てくれたはずです）

通学路で皆さんが通るのを待っていて、おはようと声をかけてくれた人、あるいは一緒に学校まで歩いてくれた人

校門で迎えてくれた先生方

体温や体調を気遣ってくれる先生

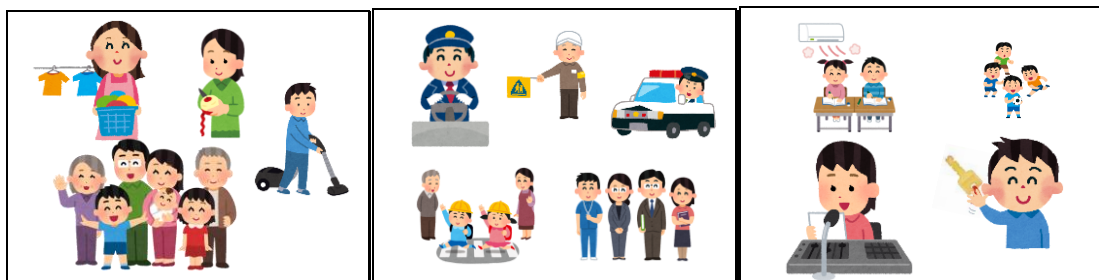
朝早くから学校にきて、鍵を開け、みんなが登校するまでに教室を暖めてくれた先生

今日も元気に、学校に来て、一緒に過ごしてくれる学級の友だちや上級生

体育倉庫のカギを開けてくれる児童会の役員さん

朝の校内放送をしてくれる放送委員さん

・・・まだまだありますね。朝のほんの少しの時間だけでも、「ありがたい」ことがたくさんあります。でも、毎日のことなので、私たちの中で「当たり前」になってしまっていることはないでしょうか？



服が毎日きれいなのは当たり前？

時間になるとご飯が食べられるのは当たり前？

バスに乗れば無事に学校まで来ることができるのは当たり前？

体育倉庫のカギが開いていて、サッカーがすぐにできるのは当たり前？

私たちの見えていないところで、誰かが私たちのことを思ってやってくさっていることがたくさんありますね。2学期の終業式の時に、「6年生は見えないところで全校のために動いてくれているよ」という話をしました。そして、「見えていないところに気づける人になりたいですね。」とも言いました。



「気づいて 考えて やってみる」

加計小学校の皆さんとチャレンジしてきたことです。その中でも今学期は特に「気づく」ことをがんばってみませんか？「当たり前」と思っていることを「ありがたい」ことだと気づけるといいですね。そして、気づいたら「ありがとう」と伝えてみましょう。やってみたら、簡単なことだけれど、気づくまでは意外と難しいかもしれません。6年生が加計小学校に通うのは、今日を入れてあと51日です。

残り少なくなったこのメンバーでの加計小丸の航海が、たくさんの「ありがとう」であふれることを期待しています。

最後にもう一つ、私からお願いがあります。

皆さんもよく知っているように「新型コロナウイルス感染症」がすぐ近くまでやってきています。これまでがんばってきた「マスク」「手洗い」「換気」をもう一度丁寧にやりきりましょう。「これくらい大丈夫だろう、自分ぐらいはいいだろう」は禁物です。

この1年、病院で働く人、介護施設で働く人、生活に必要なものを売ってくれている人、他にも、感染症が広がらないようにずっと動いてくれている人が世の中にはたくさんおられます。皆さんのおうちの方もそうです。その人たちがしてくれていることは、「当たり前」ではありません。「本当にありがたいこと」です。だからこそ、私たちがができる感染予防を、一人一人が丁寧にやることで、「ありがとう」の気持ちを伝えたいと思います。

長くなりましたが、最後まで聞いてくれてありがとう。

自分を大切に、人を大切に、みんなで力を合わせて、今を乗り越えていきましょう。

令和3年1月7日

加計小学校長 萩原 英子